

僕と君とこの世界 ～雲～



春之進

ふわっと流れた

花の風

のって踊るよ

みつばちが

白いちょうちよの

応援に

はりきり過ぎては

大失敗

バク宙しそこね

落ちてった

代わりに我がと

だんご虫

ブレイクダンスで

大喝采

小さな庭の

春の宴（えん）

ぽーんと浮かんだ風船に

何を乗せようか

夢？希望？愛？

それとも歌を乗せようか？

いいえ 僕はありのまま

風に全てを託します

ふわふわ流れてたどりつく

誰とも知れない君の元

上手にまあるく

ふくらむように

遠く旅して戻ってきても

そこは変わるか変わらぬか

僕は変わるか変わらぬか

流れて眠る君の夢

青い三日月たゆたって

くずれた砂地星になる

ぎらりとフクロウ目を回し

追った獲物は露（つゆ）になる

君は変わらず夢の人

起きては世界を飛び出して

僕をおいて鳥になる

変わらぬ世界と変わる世界

今度は僕も鳥になろう

君の居ぬ間に飛び去ろう

春風誘うよ

春風誘うよ

花小道

装い満開

おでむかえ

陽気に朗らか

鼻歌交じりに

祝うあの子は

人見知り

伏せるまつ毛に

頬染めて

踏み出す一步の

勇気はここに

うさぎのはなし

うさぎの耳に

絡みつく

不思議な歌声

はぐれ雨

さまよい歩いて

ふりふられ

うさぎのお耳は

水玉に

機嫌よろしく

うさぎさん

跳ねるように

家路についた

桜の

桜の見せた幻想は

白い帳（とばり）に

僕の影

手招きするよな

囁きに

惹かれてみれば

斑（ぶち）の猫

丸い月の目

首輪の鈴が

昼夜のワルツを

狂わせる

足元木陰の影縛り

眠りと共に落ちてゆく

いつかは散りゆくこの身なら

今だけ共におきましょう

いつかあなたが忘れても

わたしのこの根が忘れまい



灯りと共に

筆とって

ミミズこさえて

あいうえお

募る心は

金平糖

山となつてあふれ出す

涙も笑顔も溶けあつて

うまいかどうかも

わかりやしない

ミミズ埋没

もうダメだ

今日も届かぬ

この想い

新風へ

新しい風

吹き荒れて

見える前歯の

歯がゆさよ

乱れる拍手（かしわで）

抱え込み

祈る思いは

からっ風

痛くもないのに

目にしみる

せめて僕らの

ひとかけら

譲ってあげても

いいんだよ

月がとどまり

浮かばぬ太陽は

何を僕らに

もたらすものであったか

もう上手に

思い出せません

ただいつまでも

この宴は続き

花は散ることもせず

そこに美しくあるもので

もはや考えることはやめて

笑っていようと思います

しかしここは

失うことは決してなく

生まれることも

決してなく

こうして世界は回り続ける

時を打つ砂時計

水辺に浮かぶ水鳥の

最期を告げる

流れる星の

気まぐれは

決して誰にも

止められないのです

ああ ごらん

そして始まる

昨日のような今日とて

新しい芽は吹き

こうして世界は

回り続ける

